

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000579		
法人名	株式会社 北欧ハウジング		
事業所名	グループホームはな		
所在地	北海道北見市桜町6丁目2-1		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000579

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由で 楽しく 安心」の理念を持って、家族的なケアに努めております。施設の敷地内に、畑や花壇があり、入居者の方に、楽しんで頂いており、又、食事も色々な物が食べられるように、創意工夫を行っています。(食材も新鮮な物を食べて頂けるよう、毎日、買い物に行っています。)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成27年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットの「グループホームはな」は、敷地内にデイサービスを併設し、行事等での交流に努めています。近隣に大型スーパーがあり、地の利を活かし利用者や買い物に出掛けたり、利用者に新鮮な食材で食事の提供が出来るように毎日食材の買い物に出掛けています。開設前に作成した理念を更に解りやすく覚えやすい様にと7年程前に職員で話し合い「自由で 楽しく 安心」との理念を作成し、日々の介護提供の指針として、安心に毎日楽しく暮らす事が出来る様に実践に努めています。代表者、管理者は職員の就業環境整備に努め、ほとんどの職員を常勤職員として採用しています。又、毎年内部研修計画を作成し、職員教育に努めています。利用者や職員、職員同士のコミュニケーションも良く取られ、事業所内は明るい雰囲気となっています。地域との関係も良好で、町内の行事に参加したり、事業所の行事に招待し交流に取り組んでいます。火災避難訓練には、近隣住民に戸別訪問して参加を呼び掛け協力を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で、話し合うことにより、理念を作り上げている。	開設時に作成した理念を、更に解りやすく覚えやすい様に職員で話し合い「自由で 楽しく 安心」との理念を作成し、リビング、階段の踊り場、事務室に掲示し、実践につとめています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、お互いの行事に呼んで頂き交流を深めている。	町内会に加入し、総会や会議に参加したり、事業所の行事に町内会役員を招待し、相互交流に努めています。ボランティアの訪問や保育園児の訪問があり、利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の一員として付き合いをしている。又、町内会でも、会議等で、施設を活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	支援センター、町内会役員、家族代表で構成され情報交換しながら、サービスの向上に努めている。	利用者家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員等が参加して開催されています。状況・行事報告や、課題について話し合い、情報やアドバイスを運営に反映しています。議事録送付は参加者のみとなっています。	様々な外部からの意見やアドバイスを運営に反映し、サービスの向上に繋げるべく運営推進会議の情報を全家族と共有していく工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡を取り合い、協力している。	運営推進会議への参加を得たり、入所対応や相談、情報交換、生活保護課等、行政とは常に連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の研修を通して、身体拘束を行わないように取り組んでいる。	毎年、内部研修を行い、身体拘束を学び理解を深めています。止むおえない場合の書類整備もされています。言葉使い等、気になる時にはお互いに注意をし合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や、施設内でのミーティングを通して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要になる方がいるため、支援センターと調整を行い、準備を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書も併せて、わかりやすく説明し、納得を得たうえで、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話対応を通じて、色々な意見をとりいれるようにし、その都度、対応に努めている。	家族には毎月の利用料を持参してもらっており、訪問した時には状況を説明し、意見や要望を聞く機会としています。又、家族との食事会を実施し、何でも言って貰える関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	日常業務時や月一度のユニットミーティング時、大きな行事の時には全体会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会としています。又、連絡ノートを活用し、各ユニットの介護主任は双方のカンファレンスに出席し、情報の共有を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険の加入、処遇改善手当を職員に全額支給しており、又、職員の状況に応じて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場、経験に応じて研修の機会を確保し、可能な限り受講出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等を通じて、サービスの質を上げることが出来るように頑張っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には、不安にならぬよう話をし、納得して頂くように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでは、十分に家族等に説明し、家族の要望等、その都度聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を確認しながら、その方に合ったサービス利用などを含めた検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの人格を尊重しながら、出来ることは、一緒に行ってもらうことで、生きがいを見いだせるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、なかなか来所出来ない家族には電話で連絡し、日常生活の様子を伝えることで家族との信頼関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会時を通じて、関係が途切れないように、支援していきます。	友人が訪ねてきたり、思い出の地を訪ねたりと、家族と連携しながら、利用者のこれまでの関わりの継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう、共に助け合い、生活を楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、関係を必要とする家族には、相談や支援に応ずるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から一人ひとりの思いや希望を把握し、常に本人の希望に沿うように努めている。把握が困難な場合は、関係者で本人の視点に立って検討している。	管理者、職員は利用者との会話やふれ合いの中から、思いや希望の把握に努めています。困難な利用者には様子や表情、体調を見ながら把握に努め、職員間で共有し、実現に向け検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族や関係機関からの情報提供により、生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの流れに沿って、心身の状態、本人の自立度等総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、本人にあった介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を取り入れ、医療関係者や職員の意見を反映し、一人ひとりの状況に即した介護計画を作成しており、定期的に見直しを行っています。	職員が利用者の介護計画に沿った介護支援の提供が行える様、介護計画を認識していく工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通じて、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を聞き取り、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防、地域の人の協力を得て支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診の他、緊急時の受診等の支援を行っている。	定期受診は利用者のかかりつけ医へ家族が行っていますが、多数の利用者は協力医が、かかりつけ医となっており、2週間に一回の往診を受けています。新年度には訪問看護との契約が予定されており、適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や、かかりつけの病院の看護師と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と相談しながら、医療機関に対して、情報の提供やケアについての話し合いをし、退院時は病院関係者、本人、家族と話し合い、必要な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医と連携し支援している。	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を定め、利用契約時に利用者、家族に説明して理解と同意を得ています。重度化した場合には、かかりつけ医や家族と連携し、状態に合わせた支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救急法の講習を受けたりしながら、訓練し、実践力を身に付けるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施、又、訓練を通じて、近隣にも協力を要請している。	火災の避難訓練は年2回4月、9月に夜間想定で通報、消火、避難訓練を実施しています。近隣住民には実施の案内を各戸に配布して協力を呼び掛けています。自主点検は毎日行い安全に配慮しています。	積雪時における避難経路の確保及び避難時における地域住人の協力、またその他の災害に対する体制構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシー保護を損なわない言葉かけや対応をしている。	言葉の内容の吟味等、相手に対して尊重するように心がけながら、対応をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心のおきないような入浴や排泄時の対応に取り組んでいます。また、呼びかけは苗字にさん付けで行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを通して、納得しながら、生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々が、希望にそった生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理容の訪問で、おしゃれを楽しんでもらえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを反映し、又、入居者と一緒に行っている。	献立は各ユニットの主任により2ヶ月毎に交代で利用者の好みを取り入れながら、作成されています。栄養士が在籍しており、カロリー計算を行い、バランスのとれた食事になっています。誕生日には希望の料理が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量を記録しチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄は自分で出来る方以外は、職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を原則として日常のデータから、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけおむつを使用しないよう支援している。	排泄、水分摂取記録で全員の記録を取り、状況や状態を把握して自立に向けた支援を行っています。また、かかりつけ医とは薬の相談を行い適切な排泄が出来るよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をしながら、水分補給や運動等に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はある程度きめてあるが、入居者一人ひとりの希望にも対応できるよう配慮している。	入浴は利用者のその日の状態や状況を考慮しながら週に2回を基本として行い、拒否する利用者には根気よく言葉掛けをし、気持ちに向く様取り組んでいます。介護度の重い利用者には2人介助で適切な支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠、休息のパターン及び生活習慣等を確認し、自然なリズムが生まれる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報の確認と理解、又、医師の指示の指示のもと		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ、役割分担し、日々の生活が張り合いや喜びのあるものになるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の外出は困難であるが、陽気の良い時期には 散歩、買い物、畑いじり等戸外に出られるよう支援している。	気候が良くなると日常的に散歩や外気浴、畑作と屋外で活動しています。隣の大型ショッピングセンターには道路を歩かなくても行く事ができ、車椅子の利用者も買い物に出かけています。また、花見や合同食事会等行事を行い気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に付き添って自分で代金を払えるよう、お手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の有する力に応じて、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、家庭的な雰囲気をつくるように配慮し、生活していただいている。（入居者が作った絵を張ったりしている。）	1、2階の各ユニットのリビングは、広く開放的で2階には天窓があり明るい雰囲気となっています。出入口には利用者家族からの造花や生け花が飾られており、リビングには季節の飾付けがされています。冬期間は適切な湿度管理を行い快適な生活が出来るよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが落ち着ける場所や、気の合う仲間同士で過ごすことが、出来る様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談しながら、居室に使い慣れたもの、又、馴染みの物をもって頂き、本人が居心地良く、過ごせるように配慮している。	利用者の居室にはクローゼット、テーブルと物入れが一体となった棚が設置され、その他使い慣れたベットや筆筒を持参し、人形、縫いぐるみ、家族の写真、を飾り本人が居心地良く生活できるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりをつけたし、安全に、出来るだけ、自立した生活を送れるように工夫している。		